

**笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査 2024」調べ**

# 好きなスポーツ選手、大谷翔平が得票率 41.5%でダントツ 1 位 前回調査より 12.4 ポイント増加で過去最多

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する公益財団法人笹川スポーツ財団（所在地:東京都港区赤坂 理事長:渡邊一利、以下 SSF）は、1992 年から 2 年ごとに全国の 18 歳以上を対象とした「スポーツライフに関する調査」を実施し、運動・スポーツ実施状況やスポーツ観戦率などを明らかにしてきました。

最新の調査は 2024 年 6～7 月に実施。「好きなスポーツ選手」の調査結果では、総勢 485 名の名前があげられた中、1 位・大谷翔平、2 位・石川祐希、3 位・井上尚弥となりましたのでご案内いたします。大谷翔平は、質問を設けた 2002 年以降最も高い得票率となる 41.5%に上り、性別、18・19 歳～70 歳以上の年代別でいずれも 1 位となりました。

これらの調査結果をまとめた「スポーツライフ・データ 2024」は、2025 年 3 月に発売予定です。

**調査結果のポイント**

- 大谷翔平は 2022 年調査に続き 1 位、性別、18・19 歳～70 歳以上の年代別でいずれも 1 位 質問を設けた 2002 年以降、過去最多の得票率 41.5%（前回調査より 12.4 ポイント増加）
- 5 位・高橋藍、9 位・近本光司、三笥薫、久保建英は初のトップ 10 入り

**【表 1】好きなスポーツ選手（全体・性別）**

全体 (n=2,284)			男性 (n=1,182)			女性 (n=1,102)		
順位	選手名	%	順位	選手名	%	順位	選手名	%
1	大谷 翔平 (野球)	41.5	1	大谷 翔平 (野球)	38.2	1	大谷 翔平 (野球)	45.0
2	石川 祐希 (バレーボール)	3.6	2	井上 尚弥 (ボクシング)	3.6	2	石川 祐希 (バレーボール)	5.7
3	井上 尚弥 (ボクシング)	2.1	3	イチロー (野球)	2.6	3	高橋 藍 (バレーボール)	2.8
4	イチロー (野球)	2.0	4	石川 祐希 (バレーボール)	1.6	4	浅田 真央 (フィギュアスケート)	2.2
5	高橋 藍 (バレーボール)	1.4	5	松山 英樹 (ゴルフ)	1.5	5	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	2.0
6	浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.1	6	長嶋 茂雄 (野球)	1.4	6	イチロー (野球)	1.3
	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	1.1	7	リオネル・メッシ (サッカー)	1.0	7	近本 光司 (野球)	0.9
8	松山 英樹 (ゴルフ)	0.8	8	久保 建英 (サッカー)	0.9	8	池江 璃花子 (水泳)	0.8
9	久保 建英 (サッカー)	0.7		渋谷 日向子 (ゴルフ)	0.9		古賀 紗理那 (バレーボール)	0.8
	9	近本 光司 (野球)	0.7	10	大の里 (相撲)	0.7	三笥 薫 (サッカー)	0.8
長嶋 茂雄 (野球)		0.7	河村 勇輝 (バスケットボール)		0.7			
三笥 薫 (サッカー)		0.7	小祝 さくら (ゴルフ)		0.7			
			錦織 圭 (テニス)		0.7			
			三笥 薫 (サッカー)		0.7			
			ロジャー・フェデラー (テニス)	0.7				

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2024

2024年の「好きなスポーツ選手」は、総勢485名の名前があがった中、「大谷翔平」が過去最多の得票率41.5%（前回調査より12.4ポイント増加）、また2位と37.9ポイント差であった。性別、18・19歳～70歳以上の年代別でいずれも1位となった。大谷翔平は2024年1月、メジャーリーグベースボール（MLB）・ロサンゼルス・ドジャースと北米4大プロスポーツリーグ史上最高額となる10年総額7億ドル（約1,015億円、契約当時の為替レート）で契約を結び大きな話題を呼んだ。これまで「投打の二刀流」による活躍で社会の関心を集めてきたが、今シーズンはけがの手術の手術からのリハビリを優先し打者に専念

結果としてMLB史上初「本塁打50本・50盗塁」という歴史的快挙を成し遂げた。さらに2年連続本塁打王と自身初の打点王のタイトル、日本人初となるトリプルスリー（打率3割、30本塁打、30盗塁）も達成するなど、記録づくしの活躍が今回の調査結果に反映されたと考えられる。

2位の石川祐希、3位の井上尚弥は、それぞれ前回調査の6位、4位からランクアップした。石川祐希は、バレーボールリーグの世界最高峰ともいわれるイタリア・セリエAで活躍し、バレーボール日本代表主将としてもチームを牽引。2024年パリオリンピック大会出場の立役者となった。井上尚弥は昨年に世界スーパーバンタム級4団体統一王者となり、今年は2度防衛に成功している。初の上位10位には、5位・高橋藍、9位・近本光司、三笥薫、久保建英がランクインした。

2014年から2024年までの直近10年間の推移をみると、計6回の調査すべてで上位10位に入るのは、浅田真央、イチロー、羽生結弦の3名であった。

**【表2】好きなスポーツ選手の推移**

2014年 (n=1,551)			2016年 (n=2,415)			2018年 (n=2,337)		
順位	選手名	%	順位	選手名	%	順位	選手名	%
1	浅田 真央 (フィギュアスケート)	17.6	1	イチロー (野球)	16.4	1	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	10.6
2	イチロー (野球)	8.8	2	錦織 圭 (テニス)	12.8	2	大谷 翔平 (野球)	7.7
3	田中 将大 (野球)	4.1	3	浅田 真央 (フィギュアスケート)	6.5	3	イチロー (野球)	7.2
4	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	3.0	4	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	4.6	4	錦織 圭 (テニス)	7.1
5	本田 圭佑 (サッカー)	2.8	5	木村 沙織 (バレーボール)	2.9	5	浅田 真央 (フィギュアスケート)	3.7
6	香川 真司 (サッカー)	2.5	6	長嶋 茂雄 (野球)	2.0	6	本田 圭佑 (サッカー)	2.7
7	長嶋 茂雄 (野球)	2.4	7	大谷 翔平 (野球)	1.9	7	長嶋 茂雄 (野球)	2.4
8	錦織 圭 (テニス)	2.1	8	白鵬 (相撲)	1.3	8	長谷部 誠 (サッカー)	1.7
9	高橋 大輔 (フィギュアスケート)	1.9	9	五郎丸 歩 (ラグビー)	1.2		松山 英樹 (ゴルフ)	1.7
10	長友 佑都 (サッカー)	1.8		本田 圭佑 (サッカー)	1.2	10	内村 航平 (体操競技)	1.5
2020年 (n=2,246)			2022年 (n=2,237)			2024年 (n=2,284)		
順位	選手名	%	順位	選手名	%	順位	選手名	%
1	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	7.8	1	大谷 翔平 (野球)	29.1	1	大谷 翔平 (野球)	41.5
2	イチロー (野球)	7.5	2	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	5.5	2	石川 祐希 (バレーボール)	3.6
3	大谷 翔平 (野球)	5.1	3	イチロー (野球)	3.2	3	井上 尚弥 (ボクシング)	2.1
4	大坂 なおみ (テニス)	4.9	4	井上 尚弥 (ボクシング)	2.6	4	イチロー (野球)	2.0
5	浅田 真央 (フィギュアスケート)	4.2	5	松山 英樹 (ゴルフ)	2.2	5	高橋 藍 (バレーボール)	1.4
6	錦織 圭 (テニス)	4.0	6	石川 祐希 (バレーボール)	1.5	6	浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.1
7	池江 璃花子 (水泳)	2.0	7	浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.4		羽生 結弦 (フィギュアスケート)	1.1
8	渋野 日向子 (ゴルフ)	1.8	8	大坂 なおみ (テニス)	1.1	8	松山 英樹 (ゴルフ)	0.8
9	坂本 勇人 (野球)	1.6	9	坂本 勇人 (野球)	1.0	9	久保 建英 (サッカー)	0.7
10	リオネル・メッシ (サッカー)	1.4	10	那須川 天心 (ボクシング)	1.0		近本 光司 (野球)	0.7
							長嶋 茂雄 (野球)	0.7
							三笥 薫 (サッカー)	0.7

注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2024

年代別の結果をみると、全体1位の大谷翔平はどの年代でも1位となった。特に60歳代、70歳以上では得票率が50%を超えた。全体2位の石川祐希は全年代で3位以内に入り、世代を問わず人気うかがえる。60歳代、70歳以上では大の里、宇良、琴櫻と力士が上位にランクインしたのも特徴といえる。

**【表3】好きなスポーツ選手（年代別）**

18・19歳 (n=50)			20歳代 (n=292)			30歳代 (n=315)			40歳代 (n=428)			
順位	選手名	%	順位	選手名	%	順位	選手名	%	順位	選手名	%	
1	大谷 翔平 (野球)	18.0	1	大谷 翔平 (野球)	30.8	1	大谷 翔平 (野球)	33.3	1	大谷 翔平 (野球)	38.3	
2	石川 祐希 (バレーボール)	10.0	2	石川 祐希 (バレーボール)	3.4	2	井上 尚弥 (ボクシング)	3.5	2	イチロー (野球)	4.4	
3	河村 勇輝 (バスケットボール)	4.0	3	井上 尚弥 (ボクシング)	2.1	3	石川 祐希 (バレーボール)	2.9	4	石川 祐希 (バレーボール)	3.0	
	関田 誠大 (バレーボール)	4.0		リオネル・メッシ (サッカー)	2.1		イチロー (野球)	2.9		浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.6	
	近本 光司 (野球)	4.0	5	八村 塁 (バスケットボール)	1.7	5	高橋 藍 (バレーボール)	1.3		4	井上 尚弥 (ボクシング)	1.6
	ネイマール (サッカー)	4.0		イチロー (野球)	1.4		羽生 結弦 (フィギュアスケート)	1.3			高橋 藍 (バレーボール)	1.6
7	遠藤 航 (サッカー)	2.0	6	内村 航平 (体操競技)	1.4	7	浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.0	7	池江 璃花子 (水泳)	0.9	
	荻野 貴司 (野球)	2.0		高橋 藍 (バレーボール)	1.4		石川 佳純 (卓球)	1.0		久保 建英 (サッカー)	0.9	
	加藤 純一 (サッカー)	2.0		西田 有志 (バレーボール)	1.4		内田 篤人 (サッカー)	1.0		松井 秀喜 (野球)	0.9	
	具志堅 用高 (ボクシング)	2.0		クリスティアーノ・ロナウド (サッカー)	1.4		河村 勇輝 (バスケットボール)	1.0		松山 英樹 (ゴルフ)	0.9	
							坂本 勇人 (野球)	1.0		武尊 (キックボクシング)	1.0	三笥 薫 (サッカー)
						八村 塁 (バスケットボール)	1.0	村上 宗隆 (野球)	0.9			
						松山 英樹 (ゴルフ)	1.0	桃田 賢斗 (バドミントン)	0.9			
						三笥 薫 (サッカー)	1.0					

※ 同率選手他24名

50歳代 (n=432)			60歳代 (n=372)			70歳以上 (n=395)		
順位	選手名	%	順位	選手名	%	順位	選手名	%
1	大谷 翔平 (野球)	43.8	1	大谷 翔平 (野球)	51.9	1	大谷 翔平 (野球)	50.1
2	石川 祐希 (バレーボール)	4.2	2	石川 祐希 (バレーボール)	3.8	2	石川 祐希 (バレーボール)	3.3
3	井上 尚弥 (ボクシング)	2.8	3	高橋 藍 (バレーボール)	2.4	3	長嶋 茂雄 (野球)	2.5
4	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	1.9	4	井上 尚弥 (ボクシング)	2.2	4	大の里 (相撲)	2.3
5	イチロー (野球)	1.6	5	浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.3		洪野 日向子 (ゴルフ)	2.3
6	近本 光司 (野球)	1.4	6	大の里 (相撲)	1.1	6	王 貞治 (野球)	1.5
7	浅田 真央 (フィギュアスケート)	1.2		羽生 結弦 (フィギュアスケート)	1.1		琴櫻 (相撲)	1.5
	松山 英樹 (ゴルフ)	1.2	8	宇良 (相撲)	0.8	8	小祝 さくら (ゴルフ)	1.3
9	岡本 和真 (野球)	0.9		浅野 日向子 (ゴルフ)	0.8	9	イチロー (野球)	1.0
	久保 建英 (サッカー)	0.9		近本 光司 (野球)	0.8		宇良 (相撲)	1.0
高橋 藍 (バレーボール)	0.9	長嶋 茂雄 (野球)		0.8				
		平野 美宇 (卓球)		0.8				
		松山 英樹 (ゴルフ)		0.8				
		アイルトン・セナ (自動車レース)	0.8					

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2024

**【スポーツライフに関する調査 2024 概要】**

調査内容：運動・スポーツ実施状況、運動・スポーツ施設、スポーツ観戦、好きなスポーツ選手、スポーツボランティア、日常生活における身体活動、生活習慣・健康 ほか

調査対象：全国の市区町村に居住する満18歳以上の男女3,000人（男性：1,498人、女性：1,502人）

調査方法：訪問留置法による質問紙調査

地点数：300地点（大都市90地点、人口10万人以上の市122地点、人口10万人未満の市64地点、町村24地点）

調査時期：2024年6月7日～7月7日